

1. 労働者の失神がまたもや増加

労務省の発表により、2013年度は全体で800件であったのに対し、今年に入り既に600人以上の労働者が工場で失神を起こしていることがわかった。労務省で労働者の健康を取り扱っている部署に所属する PokVanthat 氏は、「今年はずでに663人が仕事中に失神を起こしています。昨年の記録は823人です。ここ数日のことでは、気温の暑さが影響しました。今年はかなり気温が上がっており、労働者はこれに耐えることができおりません。また劣悪な環境のなかで残業を強いられ、化学薬品やその匂いに長時間晒されていることにも問題があるでしょう」と話している。

Vanthat 氏は、「いちばん新しい出来事では、Meanchey 地区にある Huey Cheun 工場において昨日29人が失神を起こしています。同工場では今週に入ってすでに2回目です。扇風機の台数を増やすように、といったアドバイスをしています。しかしこうやって対策を練っている間にも、労働者は倒れ続けています」と続けて話した。Workers of the Kingdom of Cambodia (FTU)の職員 Nen Saron 氏は、「Kampong Chhnang 州 Samaki Meanchey 地区にある Jiun Ye 縫製工場では、月曜日に36人の労働者が倒れました。このなかには3人の妊婦が含まれていました。原因は、工場が扇風機を稼働させていなかったことです。労務省の規制では、工場は仕事開始時間の30分以上前から扇風機を稼働することが決められています。しかし工場側は電気代を節約しようとして稼働させませんでした。労働者たちはランチタイムから戻ってすぐに仕事に取り掛かりましたが、あまりの暑さにやられてしまったのです。昨日は工場には誰も足を踏み入れなかったようです。今日は誰も働きに来ていません。倒れることを恐れているのでしょう」と話す。

FTU 独自の調査によると、およそ500人が今年に入って失神している。FTUの職員 Om Dyna 氏は「労働者が十分な栄養を摂取していないことが大きな原因だと思います」と話し、Community Legal Education Center の Mouen Tola 氏もその意見に同意する。「この問題を解決するためには、早く最低賃金を固定して、工場が食事サポート等を提供する必要があるでしょう」と Tola 氏は話す。

2. 23人の学生が失神

6/03、突然23人の女子生徒が失神を起こし、教員の Touch Vuthy さんは事態が上手く説明できず戸惑っている様子である。Kampong Cham 州 Peam Chikorng 地区にある Hun Sen Peam Chikorng 高校の教師 Vuthy さんは、朝の7時半頃、登校してきた生徒たちが次々に倒れたと発表。「いったい何が原因だったのか、本当にわからないのです。しかし学校の環境は良く、変な食べ物や嫌な匂いで倒れたということはないと思います」と話す。生徒たちは全員17歳から18歳で、Prey Chhor 病院と州立病院に分けて運ばれていったという。州立病院の Kim Suorphirun 医師は、原因は脳の酸欠だと診断した。

3. T&K 社でストライキ続く

Por Sen Chey 地区のカナディア産業団地にある T&K の労働者達は、「会社側は、以前、自分たちに約束した1日2000リエルの食事補助手当を実際にだすつもりがない」等を理由に、およそ800人の労働者がストライキを敢行している。「食事補助に1日たとえ500リエルも払うつもりはないと彼らが言ったので、労働者は怒り、組合代表は会社との会議を退席しました。クメール正月に入る前、1日2000リエル払うと確かに約束していたにも関わらず、です。あまりにも無礼な発言です。職を失うのは怖くありません。ただ私たちの要求がかなえられるまで、ストライキを続けるだけです。最低賃金が80ドルから100ドルに上がってから、食べ物の価格も高くなってしまいました。私たちには十分な食事を得る余裕がありません」と、労働者たちは憤っている。



4. ストライキ中のオーシャン縫製工場の労働者の憂鬱



Ocean 縫製工場ですトライキを行っている労働者たちは、1ヶ月間操業を停止している雇用先の工場が、もう閉鎖してしまうのではないかと心配している。Ocean 縫製工場ですトライキをしていた1300人は、休暇中の賃金支払いを求め続けていたが、このうちおよそ20%の労働者が、すでに別の雇用先を見つけ転職してしまったという。一方、Collective Union of Movement of Workers (CUMW)の代表 Houn Vanna 氏によると、ここに長期間勤めている労働者たちは、「すでにOcean工場をやめた

労働者達は、皆 3~4 ヶ月しか働いていない新入り達です。だから、ここで無理に仕事を続けることには興味がなかったのでしょう。他にも別の職を探している労働者はいますが、いまだストライキを行う 1214 人のうちの多くは Ocean 工場で 10 年以上も働いている者達で、もし工場がこれで永遠に閉鎖、ということになるのであれば退職金が受け取れるはずの労働者達なのです」と話す。Ocean 工場の労働者がストライキを始めたのは 5 月 24 日で、工場の経営者が受注減少のため同月 26 日から工場を一旦操業停止させ、その間の賃金は 15 ドルのみ支払う、と発表したことが原因だった。ストライキをしている労働者たちは、15 ドルではなく普通の賃金全額分を支払うようにと訴えている。

CUMW の代表 Pav Sina 氏は、「政府と工場が協力して何らかの解決策を見出さない限り、デモ行進などのもっと大規模なストライキに発展するでしょう」と発表。現在の状況に対する労働者の反応は様々で、あまりの苛立ちに工場の備品を破壊し始める労働者がいる一方で、チキンや果物を仏前に供えて、「工場がこの状況を良くしてくれるよう、祈りました。こうやって物を買って祈るのは伝統的なやり方です。しかし、祈ったからといって政府への仲介の要求はやめません」と話す女性労働者もいる。Ocean 工場の匿名希望の職員は、工場はとりあえず 6 月 26 日までは閉鎖する予定であると明らかにした。

5. セメント会社でもストライキ発生

Kampot 州のセメント工場で働いていた労働者が、ストライキを始め、5 月からの賃金支払が遅れていることに抗議をした。Teuk Chhou 地区内にある Cambodia Cement Chakrey Ting 工場の 224 人の労働者たちは、会社は 5 月末に支払うべき給料をまだ支払っていないと訴えているようだ。「私たちが抗議しているのは、これでもう 10 日以上も給料が遅れているからです」とある匿名希望の労働者は話す。「会社が支払えばもちろん仕事をしますが、工場を閉鎖させる気ではないのかと心配しています。私たちには、お金が必要なのです」と彼は続けた。工場は前回も給料の支払が遅れていたという。州の労務省職員 Ung Poheng 氏は、会社がポンペンに構えるオフィスに連絡をとって、給料支払いの遅れについて話し合ったという。「会社は給料をすぐに支払うつもりでいるので、これ以上心配する必要はないでしょう」と Poheng 氏は話した。

6. 短期契約の横行

カンボジアでは、短期労働契約を断続的に行い、労働者を働かせるというケースが多く、女性の労働者は仕事と家事の両方を行き来する状況になることが頻繁にあるという。National Independent Federation Textile Union of Cambodia の代表 Ken Chenglang 氏は、「女性が妊娠して休暇をとる際の手当の支払いを避けるために、多くの工場が短期契約で女性労働者を雇っているのが現状だ」と話した。労働法には、労働者は 1 年間継続して工場に勤めた場合、各種手当の支払いを受ける権利が生じると記載されている。しかし、妊娠による休暇を会社に申請すれば、労働契約が継続されなかったり、あるいは無手当での休暇を迫られるのではないかと恐れて、中絶を考える女性労働者もいるという。Chenglang 氏は、「バイヤーや工場に対して、短期雇用契約ばかり結ぶのをやめるように私達はいま働きかけています。現状を言うと、女性労働者が子供を産む際に会社からの手当は一切支給されません」と話している。

2011 年度 Yale University study titled Tearing Apart at the Seams によると、カンボジアでの短期労働契約の横行は、女性への手当支給を拒むためのものであり女性差別の一種であるという。労働人権団体は、こういった状態は改善されるどころか益々横行してきていると主張する。2012 年から 2013 年にかけて調査されたレポートによると、127 の工場を調査し、大半がほぼすべての工場が、労働者に対して短期契約を結ばせているという。Solidarity Center の Dave Welsh 氏は、「これはカンボジアの根本的な労働問題です。カンボジアではこういった問題が根付いているということは世界でも広く知られていて、不幸にもそれがカンボジアの評価の低さにつながっています。工場の 95% が、女性が仕事に復帰し雇用保障を受けようとするのを防ごうという、共通認識を持っています。私たちは、ブランド各社が工場をグループ化し、労働法に関する教育を施す努力をするよう、呼びかけています」話す。

7. 逮捕された労働者の釈放後の苦境

Veng Sreng Boulevard からすこし逸れた所にある借家に暮らしている Pang Vunny さんは、4 人が射殺された 1 月 2 日のストライキの最中に逮捕された 23 人のうちのひとりである。彼は外を歩くとき目の前に何も無いのを確かめるように、両手を顔の前で左右に振りながら歩く。彼は警察官にひどく殴打され長く拘留されて以来、視力が急激に落ちてしまったのだという。彼は現在、人権団体の Licadho が提供した薬を服用しているが、この病気が治るのか、あるいは視力もいずれ完全に失われてしまうのか、全くわからないという。「薬が効かず盲目になってしまうのを、とても心配しています」と彼は話す。Vunny さんとほかの 22 人は、先週金曜日に釈放されたが、だからといってこの身体が生活や家族を守ることに心配を、なくしてくれるわけではない。彼の悪くなった視力はつまり、これ以上縫製現場に仕事がないことを指す。「私に罪はありません。それなのに、彼らはまるで罪人のように私を殴って、牢屋に放りこみ、3 年間の懲役を言い

渡しました。私を殴った警官たちはどうなるのでしょうか。牢屋に入るべきは彼らではないでしょうか」と話す。

警官たちがやってきたとき、Vunny さんはただ自分の部屋の椅子に座って英語の辞書を開いていただけだという。突然外に引っ張り出されて地面に抑え付けられ、首の後ろで両手を結ばれたが、そんな状態でも殴打され続けた。そして気を失ったという。「気絶したところで、水をかけられました。それで目が覚め、また固い靴を履いた足で目の周りを蹴られました。今でも咳き込んだら血が出てきたり、なにかを見ようと視線を下げたりすると、ひどい頭痛に襲われたりします」と Vunny さんは言う。彼は Licadho の援助を得てすぐ治療のためバンコクへ行く予定であるが、もしこれ以上の悪化がなければ援助はないようで、「その間、政府からの援助を受けられないか問合わせたり、裁判所に訴えたりしようかと考えています」と話している。国家警官隊のスポークスマン Kheng Tito 氏は、「裁判所に訴えを起こすのは Vunny さんの権利でしょう。もし調査が必要な場合、我々はいつでも協力します」と話した。

8. タイから帰国する労働者で、国境近辺が大混乱

20 歳の Din Phivorn さんは、ほかの 15 人の移住労働者とともにタイの軍用トラックに乗せられて、2 年以上前に渡ったポイペトの国境まで連れてこられたのだという。そもそも彼が 2 年前からタイに移り住んでいたのは、『仕事がある』という誘惑に釣られてのことだった。しかし先日、彼が勤めていた建設会社からは解雇を言い渡され、いまは寝る場所にも生活費のあてさえもない状況に追い込まれたという。彼と同じように、正式な手続きを経していないカンボジア人労働者の多くが、タイの軍事政権によって国外退去を言い渡されている。

政府は 6 月 1 日から 9 日までに 7500 人のカンボジア人労働者がタイを後にしたというが、人権団体は、実際はもっと多く、10,000 人ほどではないかと見積もっている。国境を越えてカンボジアに流れ込む人々の数をカウントするに、半分以上は女性か子供であったという。「私はもうタイで 10 年以上働いていましたが、こんなことになったのは初めてです」と Cambodia Women's Crisis Center に勤める Suong Sopheap さんは話す。

簡易テントが敷き詰められた様子は難民キャンプのようで、ポイペト国境の職員は、あまりの多さにトラックや労働者の数を把握しきれていないという。国境の両サイドとも、出国・入国手続きの行列ができています。かなりたくさんの方がカンボジアに追い返されて、居場所を失っています。しかしタイに戻るよりもカンボジアでホームレスになる、という道の方を彼らは選ぶようだ。出稼ぎ労働者の Phivorn さんは、「私を雇ってくれていた建設会社は、タイの軍事政権が違法労働をしている者がいないかどうか、すべての工場を調べに来るため、いったんカンボジアに帰るよにと頼んできました。もし違法労働が見つかった場合、違法労働者 1 人につき 10000 バーツ(333ドル)の罰金が科されてしまうと、逮捕、拘留されてしまうと言っていました」と言う。こういった噂は瞬く間に広がり、Phivorn さんは、「違法労働しているカンボジア人がタイの軍人に見つかったら、それでも 2 ヶ月以内に出国しないようであれば射殺される」、といった内容も聞いたようだ。Ministry of Foreign Affairs によると、カンボジア政府はこの噂の真偽について調査をしている段階だという。

Foreign Ministry のスポークスマン Koy Kuong 氏は、「カンボジア側の大使はタイ側の大使と面会して、帰国する違法労働者のための一時的な待機所を設けてくれるように掛け合いました。カンボジア人労働者を傷つけず、ただ帰国を手助けしてくれるよにと頼んでいます」と話す。Kuong 氏は今回の現象がカンボジア経済にとっては逆に契機になるのではと考えており、一方で移住の専門家たちは、タイにとっては逆効果に出るのではと考えている。なぜならタイでは労働人口のうちおよそ 350 万人強を違法労働者に頼っているとの統計もあるからである。「違法労働者がいなくなると、タイの産業の多くが膠着状態に陥ってしまうでしょう。製造業や海鮮加工、漁業、果樹園づくり、ゴム加工業など、不安の出でくる分野は数え切れません」そう話すのはタイの NGO 団体 MAP Foundation の Kanchana Di-ut 氏だ。タイを去っていく労働者は後を立たず、それでもまだタイ国内に 10 万人から 25 万人のカンボジア人違法労働者がいるとの予想がある。タイの現地警察は、出国しようと溢れかえるカンボジア人たちを整理する以外に、あまり多くのことは出来ないだろうと見ている。

以上